

作家略歴（五十音順）

我妻 碧宇 あづま へきう

1904（明治37）年～1970（昭和45）年

山形県に生まれる。赤羽雪邦に学ぶ。昭和4年日本美術学校卒業後、中村岳陵に師事する。1936年名古屋に転居。1943年文展にて「林間」が愛知県初の日本画特選となる。戦後は日展を中心に作品を出品するが、1961年に日展を脱会し、白土会を結成してその中心的役割を果たした。

伊津野 雄二 いづの ゆうじ

1948（昭和23）年～

兵庫県に生まれる。東京都立戸山高校を卒業後、愛知県立芸術大学彫刻科に進むが中退。1975年に知多工房を設立、木彫、家具木工芸を手掛ける。1980年代より建築、装飾美術を手掛けるようになる。現在は岡崎市の山間にアトリエを構えて具象彫刻を追求し続けている。

上原 欽二 うえはら きんじ

1915（大正4）年～2001（平成13）年

岡崎市康生町に生まれる。連尺尋常小学校から岡崎師範学校に入学。卒業とともに名古屋市にて教員となる。1943年第21回春陽展に「柘榴」「早春の畑」を出品、初入選を果たす。同年の第6回文展で「河畔」が初入選を果たすとともに岡田賞を受賞。以後、春陽展に出品を続け、中川一政に師事する。1953年春陽会の会員に推挙され、教員の職を辞して画業に専念する。春陽会を中心に活動する一方で、風景の会の結成に参加。1976年愛知県文化功労者表彰。1978年愛知県芸術文化選奨選考委員に就任する。1984年三州岡崎葵市民に顕彰される。1992年紺綬褒章を受章。愛知県の洋画壇の発展に多大な功績を残した。

大林 敬佳 おおばやし けいか

1925（大正14）年～

岡崎市岩津町に生まれる。平岩三陽に師事する。1953年日本美術院展春季展で初入選。翌年からは新制作展を中心に作品を出品する。中部新制作展で新人賞、中日賞を受賞する。1961年からは中部日本画展を結成し実行委員として活動する。新制作協会日本画部の分裂により創画会に活動の場をうつす。岡崎美術協会理事として岡崎の日本画壇の発展に多大な功績を残した。

神谷 建輝 かみや たつき

1928（昭和3）年～2012（平成24）年

岡崎市寿町に生まれる。愛知第二師範学校を卒業。新制作協会に出品し、中部新制作展で活動する。新制作協会日本画部の分裂後は創画会に出品を続けた。岡崎美術協会理事として岡崎の日本画壇の発展に多大な功績を残した。

鶴見 雅夫 つるみ まさお

1936（昭和11）年～2021（令和3）年

愛知県岡崎市に生まれる。1954年新制作展に出品し初入選。以後新制作展に出品を続ける。

1959年多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業。1960年新制作展にて新作家賞を受賞。翌年の新制作展で新作家賞を受賞。2年連続での受賞となる。1962年国際青年美術家展に出品。1966年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。同年に新制作展にて協会賞を受賞する。1967年新制作協会会員に推挙される。以後は、新制作展とともに個展で作品を発表する。1970年多摩美術大学助教授、1984年多摩美術大学教授となる。2006年多摩美術大学を退官、多摩美術大学美術館にて「彩に情熱 鶴見雅夫展」が開催される。2021年1月31日逝去。享年85歳。

成瀬 光男 なるせ みつお

1935（昭和10）年～

東京都台東区浅草に生まれる。後に岡崎に転居。岡崎市立甲山中学校から愛知県立旭丘高校美術科へ進学する。同校で杉本健吉、藤島奨の指導を受ける。高校卒業後は多摩美術大学油画科に進学し瀬島好正に師事する。1966（昭和41）年新制作展に出品し入選。以後新制作展に出品を続ける。1976（昭和51）年中部新制作展で中日賞、1980（昭和55）年の新制作展で新作家賞を受賞する。1986（昭和61）年新制作協会会員となる。油彩画のみならずガラス絵、などの多彩な制作活動を展開した。画家としての活動のほか、岡崎女子短期大学学長、理事長も務め教育者としても活躍した。

藤井 達吉 ふじい たつきち

1881（明治14）年～1964（昭和39）年

碧南市に生まれる。明治31年18歳の時に名古屋の服部七宝店に入社し、明治38年25歳で米國ポートランド博覧会出品のため渡米する。明治43年に上京し、洋画家を中心に結成されたヒュウザン会はじめ、国民美術協会の創立に参加。装飾美術協会、工芸団体無型の結成、官展への工芸部門の設置運動など、工芸部門で先駆的役割を果たすも、中央との意見の相違から次第に中央美術界から退き、郷里の工芸振興に力を注いだ。瀬戸の陶芸、小原の和紙工芸などの発展に貢献した。晩年は一所不住であったが、岡崎で死去した。

山本 鼎 やまもと かなえ

1882（明治15）年～1946（昭和21）年

愛知県額田郡岡崎町（現岡崎市花崗町）に生まれる。幼少の頃に東京へ転居。尋常小学校卒業とともに桜井暁雲木版工房に年季奉公に入り、木版技術を習得する。1902年東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科に入学。1906年東京美術学校卒業とともに創作版画活動に積極的に関わり、翌年美術文芸同人誌「方寸」を創刊する。1912年から1916年にかけて渡欧。帰国後は東京と長野県上田市を活動の拠点として、創作版画、児童自由画教育運動、農民美術運動など多彩な活動を展開する一方で、春陽会の創立にも参加した。山本鼎が展開した創作版画活動は、近藤孝太郎の岡崎の洋画家たちにも多大な影響を与えた。